

野の仏ギャラリー ③③

文殊菩薩坐像

北多久町天徳寺

光背(上部を欠損)と坐像が一体化し、別造りの丸い蓮華台の上に安置されています。頭部に宝冠を載せ、頭髪を高く結び上げています。額に白毫があり、顔形は市内に類例がありません。右手に剣、左手に経箱を載せた蓮華を持っています。この文殊菩薩は十三仏の一体として安置されています。文殊は古代インドの言葉を漢字で音写したもので、文殊菩薩は優れた知恵をもつとされます。

銘「文殊菩薩通東町人名」



多久市郷土資料館長 藤井伸幸

○菩薩は本来悟りを開く前の修行中の者を称します。
○白毫は白い毛で光明を放ちます。
○剣は知恵を象徴するとされます。
○十三仏は追善供養や冥界の裁判に関わる仏です。
○銘の通東町は久留米市内の町名です。

今月の論語

吾日三省吾身 (学而第一)
吾日に吾が身を三省す

私は毎日自分のしたことをしばしば反省します。

今月の帰宅放送は、東原座舎中央校9年の松尾愛来さんです



「多久から発信!」

SDGs ③

「制服(標準服)」

(一) 数年「制服(標準服)見直し・検討」を行っている中学校や高等学校が増えてきました。活動場面や目的を考え、生徒自身が主体的に制服を選択して着用できるようにしたり、多様な性に対応した機能的で着心地の良い制服にしたりすることを目的とするものです。多久市内の義務教育学校では、すでにこれらの目的に沿った制服が着用できる学校もあります。令和4年度には東部校で新7年生から見直しされた新しい制服になる予定です。性のあり方だけでなく、体格やアレルギーなど、多様な側面に配慮した制服の着用は、子ども達一人ひとりを大切にしたい教育活動にもつながっていきます。

今年度もたくさん応募をいただいた人権ポスターや標語作品には「ジェンダーフリー」「ジェンダー平等」をテーマにした内容が多く見られました。自分らしく、そして、だれもが楽しく生活できる社会環境を願う思いが広がっていると感じます。

多久市でもその輪がもっともっと広がっていくように、さまざまな取組を進めていきます。



5 ジェンダー平等を実現しよう

市民文芸

短歌 《麦の芽短歌会 互選》

◆水仙の清々しさに励まされ
一人居の冬 励みてゆかな
川浪 信子
◆情熱で心を満たす それだけで
いい人生と 思うんだけど
野崎 隆幸
◆霜の朝 香りほのかにつぼみつけ
我を励ます 蠟梅の咲く
梶原恵美子
◆朝未き 新聞配る 足音す
わが友なりき 自愛を祈る
浦野 嘉恵
◆あたたかい うちに食べよと 届けらるる
煮物揚げ物 つけもの サラダ
尾形 節子

俳句 《大石ひろ女選》

◆日の差して 冬草の色 いさよと
中嶋 清子
◆迷ひ込む 京の路地裏 藪柑子
富樫 明美
◆お火焚の 火を守りある 男衆
本村 則子
◆杉の 秀を 茜に染めて 山眠る
武富 律子
◆片時雨 ランドセル鳴る 下校の子
おおやはな

川柳 《多久川柳会 互選》

◆コロナ禍に マスクに溜まる
グチボヤキ 三塩不二子
◆昔の服 リフォームしたら あらステキ
古賀 弘子
◆明けぬ夜はないと 恩師に 励まされ
猪ノ口 昭子
◆第六波 招かざる客 オミク
田中 正春
◆世界中で 私を妻に ありがとう
田代まつこ